

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第1号を下記のとおり発表したので送付します。

平成26年度病虫害発生予察特殊報第1号

平成26年5月9日

岡 山 県

1. 病虫害名 **ネギアザミウマ** *Thrips tabaci* Lindeman
2. 発生作物名 **ブドウ(マスカット オブ アレキサンドリア)**
3. 特殊報の内容 ブドウにおけるネギアザミウマの加害を初確認
4. 初発生確認月日 平成24年7月
5. 発生確認場所 岡山県南部
6. 発生面積 約6 a
7. 発生状況

平成24年7月に岡山県南部の加温栽培ブドウ（マスカット オブ アレキサンドリア）において、ブドウ果粒の果頂部に「かすり状の白斑を伴う黒褐変障害」（図2）が発生したとの情報を得た。本障害はアザミウマの加害によるものと思われ、前月の6月には本施設に設置していた黄色粘着トラップにアザミウマ成虫個体が多数誘殺されていた。誘殺個体は岡山県農林水産総合センター農業研究所によりネギアザミウマと同定され、平成25年8月に本虫を果粒軟化期のブドウ果房に放虫したところ、ブドウ果頂部に現地の障害と同様のかすり状の白斑が再現されたことから、本障害はネギアザミウマによるブドウ果頂部への加害に起因すると考えられた¹⁾。ブドウにおけるネギアザミウマの加害は国内において初確認である。

8. 形態

ネギアザミウマ成虫の体長は、1.1～1.6mm程度であり、体色は淡黄色または淡褐色をしている（図1）。

9. 生態及び被害

- (1) ネギアザミウマは、ネギやタマネギの他にアブラナ科、イネ科、キク科、ナス科、バラ科、ミカン科など多種多様な植物を餌とする。
- (2) 施設ブドウの園内における本虫の密度は、5月下旬頃から増え始め、6月中旬頃がピークとなり、7月以降は減少する。
- (3) ネギアザミウマによるブドウでの被害は、ブドウ果頂部に認められる。本虫はブドウ果頂部の表皮を浅く穿孔して吸汁するため、食害痕は色が抜けてかすり状の白斑となる（図2）。
- (4) 本虫の加害により、褐点病被害が助長されることが考えられる（図2）。
- (5) 本虫による被害はチャノキイロアザミウマと異なり、果粒の輪状・雲状の褐色斑点や果梗から果軸にかけての褐変症状は認められない。
- (6) 本虫には産雌単為生殖型と産雄単為生殖型とがあり、薬剤感受性が異なるとされている。

近県では産雄単為生殖型個体群が確認されているが、本県では確認されていない。

10. 防除対策及び参考事項

- (1) 圃場周辺の雑草を除去するなど、環境整備に努める。
- (2) 施設開口部に防虫ネットや寒冷紗を被覆し、施設内への成虫の飛び込みを防止する。この場合、施設内が高温、多湿にならないよう適正な換気に努める。
- (3) 施設ブドウでネギアザミウマの発生が多くなる5月下旬から6月下旬に、ブドウでアザミウマ類に登録のある薬剤を散布する。
- (4) ネギアザミウマはブドウ果頂部を加害するので、薬剤散布は果房に十分付着するように丁寧に行う。ただし、果粉溶脱や汚れの恐れがあるため、散布時期や薬剤の選定には十分注意する。

- 1) 薬師寺ら (2014)、「ブドウ果粒におけるネギアザミウマによる加害と果頂部被害（褐点病）との関係」（第58回応動昆講要）



図1 ネギアザミウマ成虫（スケールは1mm）

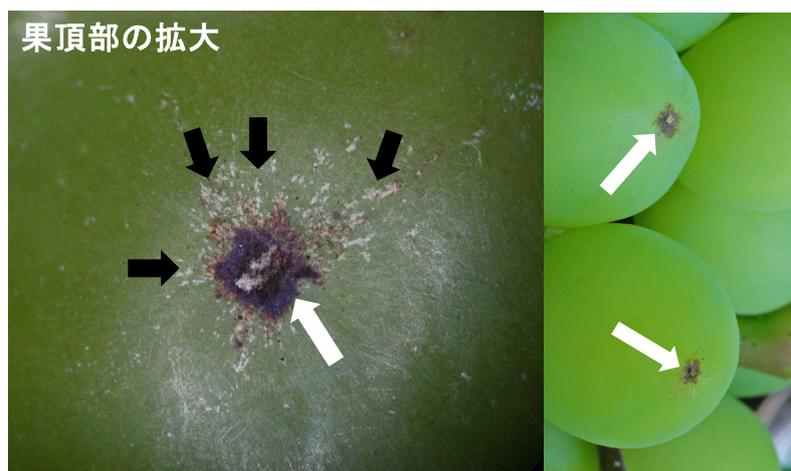


図2 ネギアザミウマによる果頂部の加害（黒矢印は加害によるかすり状の白斑）及び被害が助長された褐点病（白矢印）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239